

## 明治初期に来日した オランダ土木技師達の文通

—Johannis de Rijke が先に帰国した George Arnold Escher へ送った手紙51通—

東洋大学 正会員 上林 好之

Correspondence among Dutch civil engineers  
in early days Meiji Japan

—Letters by J.de Rijke in Japan, written to G.A.Escher in Holland—  
by  
Yoshiyuki KAMIBAYASHI

### Abstract

During the years from 1872 to 1903, 11 Dutch civil engineers came to Japan, and attained great achievement in the fields of investigation, planning and execution of public works. Especially Johannis de Rijke, who stayed in Japan for almost 30 years, from September 1873 to June 1903, played a very large part in the development of Civil Engineering concerning Hydraulics in Japan. Last year, 51 letters were found which had been written by de Rijke to George Arnold Escher, who had been back to the Nethrland in 1878, during the decade from 1879.

On this study, outlines of their contents and introduction of the persons, administrative organizations, places and projects will be mentioned. This paper will help the study of the development of civil engineering in Japan, and the evaluation of the role of de Rijke's works on the river improvement planning of such rivers as Yodogawa, Kisogawa and Shinanogawa.

[Keywords: G.A.Escher, J.de Rijke, Correspondence]

### 1. はじめに

流出土砂で年々河床が上昇し、洪水氾濫と水運の不便に悩まされ続けて来た大阪平野や濃尾平野の住民にとって、1872年来日したオランダ土木技師団の活躍は頼もしいものであったのではないだろうか。

本年は、それからちょうど120年である。オランダ技師団の業績はあらゆる所で高く評価されているが、彼等がどのようにお互を助け合い励まし合い、技術を研鑽し合いながら、母国と異なる自然条件や社会条件の国で、その期待に応じて来たのかについて研究する必要はないだろうか。de RijkeがEscherに10年間も送り続けた51通の手紙とその返事

のこともふれられているかも知れないEscherの85年にわたる63冊もの回顧録<sup>1)</sup>は、その研究のための貴重な資料となるであろう。

本論文では、人名、地名等は原則としてde Rijkeが手紙の中で用いているものを使用した。

### 2. 研究の目的

わが国の水理に関する土木技術の発展過程で、明治初期に来日したオランダ土木技師団、なかでも、30年近くも滞日したJohannis de Rijke(1842-1913)の果たした役割は大きく評価されて来た。それらの評価は、1927(昭和2)年以降になって、広井勇『日本

築港史』<sup>2)</sup>、土木学会『明治以後、本邦土木と外人』<sup>3)</sup>、『日本の土木技術-100年の発展の歩み-』<sup>4)</sup> 近畿地方建設局、『淀川百年史』<sup>5)</sup>、等において、彼等自身が手掛けてなお現存する構造物とその果たしている役割や日本語に訳された多数の報告書<sup>6) 7)</sup>等に基づいて論述されている。

1981(昭和56)年、George Arnold Escher(1843-1939)の日本滞在中の回想録<sup>8)</sup>が同名の孫 George Arnold Escher(カナダ在住、以下G.A. Escher IIと呼ぶ)によって英訳され、その英訳版<sup>9)</sup>に基づいて西原巧(1984(昭和59)年<sup>10), 11)</sup>、井口昌平(1985(昭和60)年<sup>12)</sup>等わが国の関係者によってEscherに関する論文が発表されるようになって来た。筆者が建設省中部地方建設局河川部長(1984(昭和59)年-1985(昭和60)年)の職にあった時、木曾川改修百年(1988(昭和62)年)事業として各種イベントや木曾三川百年史の編纂に着手した。木曾川改修計画立案者de Rijkeの業績を評価し顕彰することも中部地方建設局木曾川下流工事事務所によって企画され、デレーケ研究会(会長井口昌平東京大学名誉教授)が発足した。その成果は『デ・レーケとその業績』<sup>13)</sup>として1987(昭和62)年発刊された。さらに先述のG.A. Escher IIの英訳版は福井県三国町によって『蘭人工師エッセル日本回想録』<sup>14)</sup>として1990(平成2)年発刊された。

前述の論文は、いずれもEscherやde Rijkeの個人としての人物や業績に焦点が当てられている。その理由の一つとして、de Rijkeがその家族に送った手紙とそれに関連した写真についてのべられている論文<sup>15)</sup>以外には、オランダ人の間やオランダ人と日本人との間に交わされたであろうオランダ語の記録が少ないからではないかと考えられる。

筆者は幸運にも次章で述べる経緯で、オランダ土木技師団で交わされた51通の手紙を1991(平成3年)年入手することが出来た。その大部分は日本のde RijkeからオランダのEscherへ宛てたのものである。井口昌平博士によるとde Rijkeの死後de Rijke夫人が彼の所持品を焼却したらしいのでEscherがde Rijkeへ出した手紙が現存する可能性は少ないと言われているが、それを補足するものとして、Escherが1843(天保14)年から1938(昭和13)年死亡1年前までのことを記述した回想録63冊等関連する資料を孫の

G.A. Escher IIとJohan Hans Escher(オランダ在住)の2人が所有している<sup>16)</sup>。Escherが克明に日記を書き書類等をよく整理した<sup>17)</sup>性格から考えればそれらの資料の中にde Rijkeに送った手紙の主旨が発見されるかも知れない。

今回発見された手紙をはじめとする関連資料を収集、整理した上で、歴史学、人文地理学、土木工学、砂防工学等の研究者や歴史家、作家等人間関係を推察、描写できる人達の調査や研究が展開されるならば、次の事柄が明確になるのではないかと考えられる。

- (1) 日本の土木技術の発達過程
- (2) 土木事業計画を立案した時の理念の再確認
- (3) オランダ土木技師団の人物、人格像に基づいた顕彰
- (4) 資料の保存、公開、展示
- (5) オランダの土木技術が国際交流に果たした役割
- (6) 発展途上国への技術援助や技術移転への示唆

以上の観点から、各分野において研究が進められるように51通の手紙とそれに関連する資料をどのように整理し研究材料とするかについて、関心のある方々に意見を求めたく第1報としたものである。

### 3. 資料入手の経緯と所在

筆者は、建設省近畿地方建設局淀川工事事務所在職中(1962(昭和37)年~1965(昭和40)年)、淀川百年史編纂資料を収集、整理するため淀川90年史をまとめる職務にあった。それらの資料の中にはオランダ土木技師達が作成に関与した膨大な書類、図面、地図等がある。それらは1977(昭和52)年に建設された淀川資料館に保管されている。資料収集、整理の過程で、若い土木技術者de Rijke(来日時31才)が輝かしい業績をあげながら独立いく陰には、van Doorn, Escher等来日した時の上司や同僚の協力があってからではないかと考え、将来必ずそのことを研究しようと考えていた。

再び淀川工事事務所長(1979(昭和54)年~1981(昭和56)年)として、淀川資料館の運営にも関係することとなった。その頃、福井県三国町は、Escherが設計したと伝えられる龍翔小学校を郷土資料館として復元することを計画していた。オランダ大使館文化部芦塚隆氏及び当時朝日新聞編集委員(現在慶応義

塾大学教授)坂根巖夫氏が版画家 Maurits Cornelis Escher (1898~1972)の父がEscherであることを確認した。「龍翔館」の開館式にEscherの孫6人が坂根巖夫氏の仲介で三国町へ招待された<sup>18)</sup>。6名は帰路祖父ゆかりの地淀川工事事務所の毛馬出張所を訪ねた。その記念として、Maurits Cornelis Escherの長男でEscherと同名の孫G. A. Escher IIからEscherの日本での回想録『Levensschets en herinneringen van George Arnold Escher, II Japan』(原書にはタイトルはない)が寄贈された。

筆者は、念願の研究をするための時間的環境が整った1990(平成2)年1月、オランダに住み日本に来たことのある Charlort, Arnold Escher, Yohan Hans Escher (以下Hans Escherと呼ぶ)3名にオランダのハーグで会い研究の主旨を伝えたところ、Escherに関する多数の資料を心良く見せてくれた。同年7月、再びHans Escherが来日した際も再会し、彼がI. G. Bekkerに依頼して作成したEscher関係資料のリスト『VOOROPIG OVERZICHT van de archief bescheiden afkomstig van ir G.A. Escher 1843-1939. I. G. Bekker, Doetinchem 1990』を寄贈してくれた。Hans Escherの帰国後、従兄のG. A. Escher IIも前記リスト以外に関係資料を持っている旨の連絡があった。筆者はG. A. Escherと連絡をとり1991(平成3)年8月カナダの自宅にG. A. Escher IIを訪ね、4泊して彼の所有する資料を心良く十分に見させて頂き、予め郵送して頂いていた『Copies of letters by J. de Rijke in Japan, written to G. A. Escher in Holland 1879-1889』、『Copies of Memories G. A. Escher 1859-1873 Study in Delft Early Jobs』、『Copies of Contract of G. A. Escher with Japanese Government』及び『Copies of draft for Commemorative article on J. de Rijke Written by G. A. Escher for "de Ingenieur", 1913』(いずれも筆者のためにG. A. Escher IIが英語のタイトルをつけてくれた)4冊を原本と照合するとともに100点以上の貴重な文書、図面、写真等も見ることができた。筆者の訪問前の手紙の中に書いてあった『Brief index of documents left by George A. Escher relating to his Works in Japan in 1873 to 1878. Compiled by his grandson George A. Escher.』とも照合することができた。

これらの書類は、財団法人日蘭学会常務理事(東京大学名誉教授)金井博博士を窓口幅広い分野の方々の協力を得て和訳する予定である。

オランダでは、Euro Television Productionsが『Dutch waterengineering in Japan』を制作企画中で、ディレクターのMr. Frank Peynenburgが筆者にEscherのことについて意見を求めた。筆者は、日本ではde Reijkeが重要な役割を果たし、大きな功績を残しているため、de Reijkeを除いてはそのドキュメンタリー映画は成り立たないことを説明し、Escherの孫達によって多数所有されているde ReijkeがEscherに宛てた手紙等の資料を参考とするよう助言した。その結果、同系列のEuro Book Productionsは、それらの資料を基に『Dutchmen in Japan』の刊行を予定している。

また、『Copies of letters by J. de Rijke in Japan, Written to G. A. Escher in Holland 1879-1889』は前記Productionsによって活字体に直されているところで、本年5月中旬には筆者の手元に届く予定である。このことについてはEscher IIの了解が得られている。

また、Leiden大学ではWillen van Gulik教授が関心を持っている。

#### 4. オランダ土木技師団の滞日期間と業績の概要

表-1に技師団の滞日期間を示した。

##### 1) C. J. van Doorn

東京に住み、オランダ土木技師団の主任技師として団全体を統括し、各技師や工手を監督した。

##### 2) G. A. Escher

志願して来日した。滞日期間の前半は大阪に住み主として淀川の調査、計画に従事した。後半は、三国港の調査、計画を行なったのち、東京にも住んだが鳥取から山形まで技術指導して歩いた。de Rijkeとはオランダ時代からの知り合いで、お互に尊敬し合っていたらしい<sup>19)</sup>。団員の中では日本に関する記録を最も多く残している。帰国後は、土木技術者の最高官位である技監(hoofdingenieur-directeur van de Rijkswaterstaat)に就任、1908(明治41)年オランダ国獅子勲位(ridder in de Orde van de Nederlandse Leeuw)の勲爵位を授与された<sup>20)</sup>。

##### 3) A. T. L. Rouwenhorst. Mulder

Escher帰国後来日し、東京に住んで関東から東の地方を主として担当した。一時帰国したが、11年間滞在し、de Rijkeと共に多くの業績を残した。

4) I. A. Lindo

van Doornと共に最初に来日した。東京に住み、利根川や江戸川の仕事に従事した工兵士官である。

5) A. H. T. K. Thissen

Escherやde Rijkeより1ヶ月遅れて来日して大阪に住み淀川を担当したが、1876(明治9)年 Escherと共に東京へ移り、最後に鹿児島で退職した。

6) J. de Rijke

家業の港湾建設業に従事しながら、当時水政省の技師で後の工科大学教授となった J. Le Bret から数学、力学を学び種々の土木工事の監督を経て van Doornのもとでも働いていた。Escherと共に来日し、4等工師に格付されたが、滞日期間は最も長く、Escher の口添えもあって<sup>21)</sup> Escherと同格の月給となる<sup>22)</sup> などその実力を認められ、離日に際し、政府から勲二等瑞宝章をおくられた。帰国後は、オランダでEscherと同じ勲爵位を授与された<sup>23)</sup>。

7) J. G. van Gendt Jr

石狩川河口の築港計画のため、Escherの帰国後來日した。幌内炭輸出の便をよくするため石狩川とその河口を大改修する調査計画をすすめていたが、滞日1年8ヶ月にして病死した。

8) 工手

4人の工手達がそれぞれの職場で1)~6)の技師達を助けた。

5. de RijkeがEscherへ送った手紙の概要

de RijkeがオランダのEscherへ送った手紙は、表-2 に示したように、不鮮明なものがあり分類が難しいが、51通170葉5926行ある。上司van Doorn宛8通、北海道開拓使石狩川水理工師J. G. van Gendt Jrがde Rijke に宛たもの1通、Mr Narabayashiが英訳したとメモされたDoboku Kiokuの通達らしきものの1通、英文のS. Ishii Eng. Naimu Gondaishiokikan宛1通、Mr Ishiiから de Rijke宛英文電報とそれに対するde Rijke の英文の返事1通がある。de Rijke が手紙を書いた所は、Osaka 24, Mikuni 1, Tokyo 14, Shanghai 1, Amsterdam 2, Ogaki 1, Apeldoorn 1, 不明4, その他3である。

手紙の数が多く、手書のオランダ語のものがほとんどあるため、全文を正確に訳してはいないが、本節では、いくつかの手紙の概要と記載されている人名、行政機関、場所等とde Rijkeが内務省へ報告した文書の一覧表を表-2として示した。

上司van Doornへ出した手紙の書き出しは、Waarde Heer Van Doorn となっている。Escher へ出した手紙は、Amiceから始まっているが、1884(明治17)年10月13日付手紙から、G. A. Escher Eng. Gorcumと書き始められている。Gorcumは勤務地である。来日当初Escherは1等工師、学歴のないde Rijkeは4等工師に格付されている<sup>24)</sup>、<sup>25)</sup>が、1才年長のde RijkeとEscherの関係は相当親しかったのであろう<sup>26)</sup>。de Rijkeは1才年下のEscherを親しい友人で、技術的に優れた相談相手と思っていたらしい。

1) 1879(明治12)年5月17日付手紙

Escherは9月10日受理とメモしている。「Amice, 'k was bijna al begonnen knorrig te worden en 't kwalijk te nemen dat ik bij U in 't ver-geetboek was geraakt. Voor 'n paar dagen eindelijk ontving ik Uw brief van 19 Maart.」(拝啓、小生は、すっかりいらいらしはじめ、君に忘れられがちになっているのではないかと心配しているところでした。1日前、やっと君の3月19日付けの手紙を受け取りました。)と書き始め、つづいて、孤独

表-1 オランダ土木技師とその滞在期間(福井県三国町、『蘭人工師エッセル日本回想録』、中部地方建設局、『デ・レーケとその業績』に修正・加筆)

名前	職位	月給 (405円)	1870 1875 1880 1885 1890 1895 1900 1905									
			明治5	10	15	20	25	30	35年			
C. J. van Doorn (1837-1906)	長工師	500		5.2		13.7						
G. A. Escher (1843-1939)	1等工師	450		6.9		11.6						
A. T. L. R. Mulder (1846-1901)	1等工師	475				12.3			23.5			
I. A. Lindo (1847-?)	2等工師	400		5.2		8.10						
A. H. T. K. Thissen (1839-?)	3等工師	350		6.11		9.11						
J. de Rijke (1842-1913)	4等工師	300		6.9							36	
D. Arnst	工手	100		6.9		13.12						
J. N. Westerwiel (1939-?)	工手	100		6.11		11.11						
J. Kalis	工手	100				8.5		10.5				
A. van Maastrigt	工手	100				12.3		14.2				
J. G. van Gendt	北海道開拓使 石狩川水理 技師工師	800				12.3		14.2				

な小生にとって、1年前の手紙より今の手紙の方がどれだけ価値のあることか知れませんが、どの手紙よりも丁寧な筆蹟で6葉230行が書かれている。上司 van DoornをVDと略して書き、Escherに代わって来日したMulder(ここではR<sup>t</sup> Mullerとスペルを間違えている)、北海道へ行く予定のvan Gendt などの近況、仙台、三国港、四日市港、淀川等の仕事上のことが書かれている。最後は、前アメリカ大統領 General Grandが東海道を通るので、その見物のため、明朝、尾張地方へ出かけると結んでいる。この手紙はEscherがオランダからde Rijkeへ送った手紙を受けて書いたものである。

その時に同封されたと考えられるのは、de Rijkeがvan Doornに宛てた1879(明治12)年1月付手紙である。

## 2) 1879(明治12)年10月20日付手紙

Escherの設計した三国港は北西の強風で工事が難行し、工期の延長と費用が増大することが書かれ、van Doorn 宛の手紙4通が添えられている。

## 3) 1880(明治13)年2月10日付手紙

三国港、福岡港、新潟港、木曾川、淀川等のことが、土木局、Ishii, Mulder, van Doorn等の関係で述べられている。木曾川の河床上昇対策にフランスの例を参考にしたいのでフランスの本を送ってくれるよう依頼している。通訳に一度オランダ語に訳してもらうので費用も若干かかると書いているので、de Rijkeはフランスの事例や本を直接読んでいない可能性がある。詳しく読めば、de Rijkeがフランスの事例の引用が目立つとしている<sup>27)</sup>ところの理解が深められると考えられる。

この手紙には、1880(明治13)年1月22日付、1月30日付、日付不明の3通の van Doorn 宛手紙とHarabayashiが英訳したDoboku Kiokuの通達らしき「Regulatiton for protection of Yodogawa and Kisogawa Sources regarding to different people business in Mountain」とvan Gendt が札幌からde Rijke へ宛てた1880(明治13)年2月6日付手紙1通がある。

van Gendt の手紙は石狩川河口をショートカットする彼の案をスケッチして説明し、家庭にいる3人のお嬢さんのことも書いている。その年の12月横浜で病死しているから彼の研究には貴重な資料である。

これらの中に福岡港の図面が2枚入っている。

## 4) 1880(明治13)年4月2日付から1881(明治14)年8月21日までの16通

de Rijke の仕事と交際範囲が拡大されていることが覗かれる。S.Ishii Naimu Gondaishokikan宛の英文の手紙が添えられ、不満を訴えている。

de Rijke の先妻 Johanna Maria Alida は1881(明治14)年6月8日死亡している<sup>28)</sup>が手紙にはそのことが書いてなきそうである。

## 5) 1881(明治14)年10月25日、12月19日、12月24日付手紙

妻Johanna の墓を母国へつくるため上海を経てオランダへ帰った時の手紙である。Escherへ日本での仕事の話のここでも書いている。

## 6) 1882(明治15)年7月21日付手紙

BattekeからEscherの結婚を聞いたこと、日本へはParis を経て帰ったことや日本での仕事のことを書かれている。

## 7) 1884(明治17)年2月26日付から12月15日付までの9通

1883(明治16)年の手紙はない。書かれた所は東京5、大阪3、大垣1である。手紙の内容からは自信に満ちた男の姿が覗える。仕事、人名、関係機関等をあげて詳しく書いている。手紙の書き出しはG.A.Echer Eng. Gorcumとなっている。Gorcumは Escherの勤務地である。

## 8) 1885(明治18)年6月4日付手紙

de Rijkeは再婚のため1885(明治18)年6月18日オランダへ帰国し、8月13日結婚式をあげ、8月25日日本へ向かった<sup>29)</sup>。この手紙はオランダのApeldoornでのものである。ここで子供達と一週間過ごしている。4月に日本を出てCalifornie 経由でAmerika へ行き、イギリスではLiverpoolとLondonへ行ったこと、9月には再び日本へ帰らなければならないなどが書かれている。大阪港、木曾川にサンドポンプによる浚渫が有効だからRotterdamのWater Wegへ一緒に行かないかと誘っている。結婚したばかりのこのほんのわずかの母国での生活にも頭の中は日本での仕事の事で一杯だったらしい。ここでは...met vriend Mulderと書いているから、当初あまり仲良くできなかったMulderとうまくいくようになったらしい。

## 9) 1886(明治19)年4月11日と21日付手紙

表-1-1 de Rijkeが先に帰国したGeorge Arnold Escherへ送った手紙に記載されている人名・行政機関、場所等  
(作製: 上林好之、1992.4.1)

No	日付	送り先 (送り主)	書かれ た場所	記載されている			de Rijkeが内務省へ報告した文書 <sup>9)</sup> (1876年~1889年)	
				人名、行政機関等	場所、その他	系、行数		
1	1879 (M12) 1. 22	Van Doorn	Osaka	Ishii, Sato, Miabe, Miawits, V. Gendt	Yodogawa, Iga, Yamashiro, Mikuni, Yokkaichi	不鮮明3系87行	1876. 6. G. A. Escher: 越前坂井港計画(敦賀 県の上申により1876年6月及12月購 売し、その後報告した。工事は 1878年6月着工し、初めエッセル、 後デレーケが監督した。) 商工 部越前坂井港「坂井港修築建 議」 坂井港は三國港のことである。 以下de Rijkeの報告書 1877. 藏川改修敷工水制概略(エッセル共 述) 1878. 坂井港(越前)工事監督 1878. 4. 1. 木曾川修築長良及庄内川流域概況(木 曾川下流改修計画である) 1879. 7. 8. 博多港略図遊星の件、石井土木局 長宛 1879. 11. 7. 木曾川改修計画意見、岡川及支流 川の河川監督上の意見具申、内務 省宛、名古屋土木出張所 1879. 11. 27. 木曾川流域岐阜以西山林の件(山林 伐採が甚しいので砂防工事施行の 必要性を上申)石井土木書記官宛 1879. 12. 4. 庄内川山丘土砂流送の件(伐採を禁 止しなければ大規模の砂防工事を 必要とする旨を上申)、石井土木書 記官宛 1880. 大阪港調査 1880. 2. 2. 福岡港内放水閘築設の件、石井土 木局長宛 1880. 2. 18. 耕地及河流除害法即ち山林樹木伐 採禁止、山地樹木植栽、土砂停止 工事の必要性を上申、石井土木局 長宛	
2	1879 (M12) 5. 17	G. A. Escher <sup>註)</sup>	Osaka	Arnst, VD (Van Doorn) R <sup>3</sup> Mulder, Okamoto, V. Gendt, Jufor Guling, Sato, Watanabe, Miawits, Miabe, Osakafu, Osaka Gouverneur, General Grand, Conel Euslie, Dr Mansvelt	Sendai, Niigata, Osaka, Yezzo, Nader, Mikuni, Holland, Kobe, Japan, Yodogawa, Kisugawa, Amsterdam, Kisogawa, Hiogo ken, Yamaguchi ken, Hakata Yokkaichi-haven, Adjikawa, Kioto, Engeland, Niigata, Owari buurt, Tokaido	6系230行		
3	1879 (M12) 5. 24	Van Doorn	Osaka	Osakafu, Naimusho, Sato, Arnst	Tokio, Sendai, Shinano, Mikuni, Yodogawa, Holland, Kidzugawa	不鮮明2系62行		
4	1879 (M12) 7. 16	Van Doorn	Osaka	Japaners, Ishii, Yokoishi	Hakata, Nukagawa, Fukuoka, Tokio	不鮮明3系87行		
5	1879 (M12) 2. 5	Van Doorn	Osaka	Ishii, R. Mulder	Mikuni, Yokkaichi, Niigata, V. Maastricht, Osaka	不鮮明3系10行		
6	1879 (M12) 10. 1	Van Doorn	Osaka	Mulder, Takahashi, Ishii	Mikuni, Hakata	2系56行		
7	1879 (M12) 10. 20	G. A. Escher <sup>註)</sup>	Osaka	Miawits, VD, Jan Lohuizen, V. Mansvelt	Mikuni	1系29行		
8	1880 (M13) 2. 6	de Rijke (J. G. van Gendt Jr)	Sapporo	Knitakushi, Gesso, van den Brank, Japaners	Tokio, Yokohama, Sapporo, Holland, Ishicari	4系80行 図1枚		
9	1880 (M13) 2. 10		Osaka	Mulder, Niigata report, Escher, Kiyoki, Ishii, VD, Japaners, VG, Mulder, Dob	Mikuni, Fukuoka haven plan, Mino, Owari, Stad Gifu, Japaners zee, Tokio, Holland, Yesso, Kisogawa valley, Kobe, Franch, Hollandseh, Yodogawa, Kisogawa, Station Kabata	2系72行		
10	1880 (M13) 1. 22	Van Doorn	Osaka	Stomn Go, Dob, Mulder, Ishii, Japaners	Yokohama, Mikuni	不鮮明1系46行		
11	1880 (M13) 1. 30	Van Doorn	Osaka	Ishii, Doboku kioku, Doboku lieden	Osaka, Kidzugawa, Osaka kooplan, Japanscho Huis, Kisogawa, Mino, Osaka, Gifu, Mikuni, Yodogawa, Nagaragawa	不鮮明2系56行		
12	1880 (M13)	Van Doorn		Dobokioku, Hollandsch bass	Mikuni haven werder, Stad Fukuoka, Hakata	不鮮明3系80行 図2枚		1880. 1. 22. 淀、木曾両河流域樹木保護の件には付上申 1880. 2. 21. (法令をもっと取締るべきことを上 申)、石井土木局長宛 1880. 5. 13. 新神崎川悪水路修治の件(大阪府の 出願により購売し意見を上申した) 石井土木書記官宛
13	1880 (M13) 2. 10	Narabayashi Translation	(Doboku Kioku)	Doboku kioku officer, Ken Sabrin Rioku, Naimusho, Fu,	Yodogawa, Kisogawa, Governments mountains	不鮮明英文 3系94行		
14	1880 (M13) 3. 26	S. Ishii Eng. Naimu Gon- daishinkikan	Osaka	Doboku kioku	Setagawa, Yodogawa	不鮮明英文 1系18行		
15	1880 (M13) 4. 2	G. A. Escher <sup>註)</sup>	Osaka	Ishii, Minister Matskata, Tonegawa, Van Doorn, Ishii, Matskata, Watanabe, Tanaka, Naimuko, Miawits	Adzigawa, Osaka, Niigata, Tokio, Mikuni, Osaka, Kabata, Gifu, Yokkaichi, Sendai	不鮮明 3系125行		

表-1-2 de Rijkeが先に帰国したGeorge Arnold Escherへ送った手紙に記載されている人名・行政機関、場所等  
(作製：上林好之、1992.4.1)

No	日付	送り先 (送り主)	言かれ た場所	記載されている			de Rijkeが内務省へ報告した文書の (1876年~1889年)
				人名、行政機関等	場所、その他	葉、行数	
16	1880 (M13) 4.12	G. A. Escher <sup>註E</sup>	Osaka	Naimukio, Mulder, Ishii, Watanabe, Ishikawa, Kiotofu, Mitsubishi, Eurazian, Marie, Bonger, Arnst, Van Gendt, Maastricht	Yokohama, Kabata bergen, Yodogawa, Kitsu, Kidsuvallei, Nara vallei, Sakai ken, Kobe, Hong Kong, London, Holland, Mikuni, Mansviold, Yesso, Panama, Osaka, Gifi, Kagoshima	3葉173行	1880. 6. 3. 山林保護の件(山林保護の方法を詳 述している)、石井大書記官宛
17	1880 (M13) 7.8	G. A. Escher <sup>註E</sup>	Osaka	Kiyaki, Shima, Arnst, Yakunins, Ishii, Mikado, Matsgata, Sato, VD	Osaka, Kobe, Mikuni, djirikisha, Mino, Gifu, Holland, Mikuni haven, Tokio, Japan, Kioto, Osaka	5葉179行	
18	1880 (M13) 7.19	G. A. Escher <sup>註E</sup>	Tokio	Ishii, V. Doorn, Mulder	Osaka, Yokohama, Nigata, Hiroshima, Mino, Nakasendo, Mikuni, Java, Holland	1葉35行	
19	1880 (M13) 9.16	G. A. Escher <sup>註E</sup>	Mikuni	VD, Mulder, Bonger, Arnst, v. Maastricht, V. Gendt, Oosima, Ermerins, Dr Sakahashi, Thissen, Mikado, VD, Ishii, Dobokurio, Engeneering colledge in Tokio	Tokio, Nigata, Japan, Nakasendo, Shinano, Holland, Mikuni, Sendai, Japanische Saki, Jesso, Nakanoshima in Osaka, Satsuma, Gifu, Nagoya, Kanagawa, Hida, Kobe, Arima, Suwa meer in Shinano	5葉204行	
20	1881 (M14) 1.6	G. A. Escher <sup>註E</sup>	Osaka	Ishii, V. Gendt, Mulder, D. Beukema, V. Maastricht, Arnst, V. Hemert, Ulijsses, H. Librch, Dr vd Heiden	Kobe, Japanners, Japan, Yokohama, Sapporo, Tokio, Holland, Nobiru, Mikuni, Yesso, London, Shanghai, Osaka, Mino, Hiogo, Nagasaki	4葉114行	
21	?	?	Osaka	Arnst, Naimusho, Ishii, Miawits, Naimuko, Satow, Sato	Kobe, Tokio, Mikuni, Wakayamaken, Yokohama, Kisogawa (Kisog. Nagarag. en Ibig.), Osaka, Mino, Nigata, Mastericht	不鮮明 7葉257行	
22	?	?	?		Kobe, Oigawa, Kisogawa	不鮮明2葉65行	
23	1880 (M13) 11.15	G. A. Escher <sup>註E</sup>	Osaka	Ishii, Yakunin, Satow, Dob. Miawits, Miaguchi, V. Doorn, VG	Mikuni, Yodogawa, Tokio, Osaka, Kobe, Holland, Mino, Kisogawa, Sapporo, Owari	不鮮明 60葉248行	
24	1880 (M13) 11.18	de Rijke (Ishii)	Telegramman	Mulder, Miawits	Mikuni	不鮮明英文 1葉9行	
	1880 (M13) 11.19	Ishii (de Rijke)	van Tolck	Ishii, Mulder, Arnst	Mikuni harbour	不鮮明英文 1葉17行	
25	1880 (M13) 11.23	?	Osaka	Satow, Miawits, Arnst, Miura, Ishii, Dob	Osaka, Mikuni, Kanazawa	不鮮明2葉65行 葉数欠落	
26	1881 (M14) 5.23 5 24	G. A. Escher <sup>註E</sup>	Tokio	v Heide, Mulder, Japanners	Kobe	1葉23行	
				Thissen, Mulder, Ishii	Holland	1葉15行	
27	?	?		Nakamura, Arnst, Lindo	Breda, Kobe, Meastricht	2葉54行	
28	?	?		Matsgata, Mulder	Holland, America	} 招 不 期	

表-1-3 de Rijkeが先に帰国したGeorge Arnold Escherへ送った手紙に記載されている人名・行政機関、場所等  
(作製: 上林好之、1992. 4. 1)

No	日付	送り先 (送り主)	寄かれ た場所	記載されている			de Rijkeが内務省へ報告した文書印 (1876年~1889年)
				人名、行政機関等	場所、その他	乗、行数	
29	1881 (M14). 7. 19	G. A. Escher <sup>註</sup>	Osaka	Minister Matskata, Ishii, Europeanen, V Doorn, Mulder, Mikado, Bonger, Gifuken, Dob, Anna, Arist, Lindo, Purmerend, V. D. Pot, Japanner, Okina, vHemert, Tavro Brandt, vd Heijde, Bögel, Beukema, Geerts, vHemert, Carst, Hecht, Watanabe, Koning, Mancini, Mrs Green, vd Got, Dobokukiyoku, Mrs Thissen, Narahayashi, Kiyama, Sugiyama, E Knipping, Yonekura, Usami	Tokiyō, Kobe, Holland, Osaka, Indie en Roode Zee, Mikawa, Owari, Mino, Omi, Maastricht, Yamagata, America, London, Japan, New Zeeland, Engelich, Europa, Shimono Scki, Yokohama, Nigata, Ishicarigawa, Sapporo, Leiden, Duitsche club, Tsuruga, Takasaki, Fukui, Kanazawa, Sakai, Wakayama, Fukuiken, Tonogawa, Gmma, Nagasaki, Ogaki, Marscille	12乗316行	
30	1881 (M14). 8. 21	G. A. Escher <sup>註</sup>	Osaka	Dob. officers, Kiyo do shi = K. D. S. Hanamoto, Gifuken officers, Kai raku sha, vd Heide, vd H, Naigi, Logies, Erinerins	Arima, Osaka, Ooto, Mayebara, Nakasendo, Sekigahara, Ogaki, Mikawa (Aichiken), Nagoya, Yahagigawa, Okusaki, Tokaido, Yoronotaki, yoro, Japan, Mino, Shinano, Kisogawa, Tsunago, Nakats, Nesame, Hida grenzen, Oi, Mitake, Gifu, Nagoragawa, Ishigawa, Japansch, Nakanoshima, Holland	不鮮明 8乗242行 函1枚	1881. 8. 20. 宇品築港京橋川宇品間海堤建設の 件、石井土木局長宛 1881. 淀、木曾岡河流域樹木保護の件 1881. 8. 23. 木曾川流域砂防工事の件(施行中の 工費27,800円を100,000円に増額の 意見及びその一部を地元に分担さ せる意見)、石井大書記官宛 1881. 8. 30. 淀川改修費砂防費分配の件(1881 (明治14))年度工費6万円の内2万円 を淀川改修費に充てることにつ いて増額を上申したもの)、石井大書 記官宛
31	1881 (M14). 10. 25	G. A. Escher <sup>註</sup>	Shanghai	Dr Schokken, Beukema, Einma, Ishii, Eykman, Mulder, Duitschers, Mees, Engelsche, Heems, Japansche meid	Japan, Marscille, Wusung, Yangtza, Nankin, Chaina, Osaka, Nagasaki, Kumamoto, Tokiyō, Holland	4乗116行	1881. 9. 12. 福岡港内放水門築設の件及び築港 費節約計書の件(港内水深12尺でよ ければ水門の要件性はないと変更 計書を上申したもの)、石井土木局 長宛
32	1881 (M14). 12. 19	G. A. Escher <sup>註</sup>	Amsterdam	Jan van Vaassen, JL Hassoldt	Marscille, Paris, Amsterdam, Oostubech, Breda	2乗46行	
33	1881 (M14). 12. 24	G. A. Escher <sup>註</sup>	Amsterdam	Consul, Van Doorn, Jan	Marscille, Gorcum, Rijnkanaal, Japansch zingen	2乗53行	
34	1882 (M15). 7. 21	G. A. Escher <sup>註</sup>	Osaka	Batteke, Z. W. Mouson, Mulder, Ishii, V. Doorn, Kura, Dobokurio, Ailion, Narahayashi, Ceerts	Paris, Japan, Kobe, Siudh, Marscille, Tokio, Osaka, Holland, Yodogawa, Gifuken	2乗73行	1882. 9. 30. 長崎港内築港の件(港内築港を調査 し浚渫の必要を上申した)、石井土 木局長宛 1882. 12. 31. 宇品港の件(1881(明治14)年復命 した計書に対する説明)、石井土木 局長宛
35	1884 (M17). 2. 26	G. A. Escher Eng. Gorcum	Tokio	S. V. P. Vtleteren (Vtl), Mikado, Oota, Naimusho, Shimidzu (Kobayashi), Mulder, Dr Beukema, Tusi, Tuijyama, Cok Anna, Dr Jorisen, Dr vd Heijden Dr Baels, Bongers, Ishii, Nakamura, Dob Kiyoku, Kobu Dai Gaku, Kiyama, Duitscher Sagel, Iwateken, Shima, Dirks	Seelheim, Amsterdam, Shizuokaken, Oigawa, Tenringawa, Osaka, Kioto, Tokio, Stad Kiols, Yanagase, Tsuruga, Kiotolui, Biwameer, Yodogawa, Shizuoka, Mayebashi, Tonogawa, Yedogawa, Shikok (Yoshinogawa), Simabarabani (Tsikugogawa), Satsuma, Wakayamaken, Yodogawa welke rivier, Kumamoto, Nagasaki, Noto, Yesso, Japan, Apeldoorn, Loolaan, Kagayashiki, Holland, Kobe, Japanners, Yokohama, Morioka, Ohiji,	4乗145行	1883. 1. 3. 長崎港内築港の件(築港計画の 調査)、石井土木局長宛 1884. 5. 4. 宇品港の件(広島県からデレーケの 計書に対して多少の変更を申請さ れたのに対しその意見を上申)、島 土木局長宛

表-1-4 de Rijkeが先に帰国したGeorge Arnold Escherへ送った手紙に記載されている人名・行政機関、場所等  
(作製：上林好之、1992.4.1)

No	日付	送り先 (送り主)	書かれ た場所	記載されている			de Rijkeが内務省へ報告した文書の (1876年～1889年)
				人名、行政機関等	場所、その他	葉、行数	
36	1884 (M17). 4. 17	G. A. Escher <sup>(註)</sup>	Tokio	Mulder, Japanners, Mikuni, Nigala, Minister Yamagata, Ishii, Mulder, Naimusho, Kobusho, Sho (Publ. werken), Fukoka en Saga Kens, Van Doorn, Nakamura, M. B. Iwateken, Shima, Dutch Enginners, Enomoto, Okamatsu, Ing. Kinder, Naimusho, Shima V. Doorn, VH. Batavialieden	Hool. Mississippi, Omoto, Kobe, Yokohama, Nigata, Europ, London, Nobirunarigheid, Yodogawa, Fudogawa, Kabata, Kioto, Nara, Kabatabergen, Tokio, Hakatahaven, Yodogawerken, Yoshinogawa, Sikok, Ki channel, Wakayama, Tokio Maru, Japan, Nobirucanal, Stad Nobiru, Stad Ishinomaki, Oginohama, Yokohama, Holland, Peking, Kioto, Seiyoken Uyeno, Shimonoseki, Saga, Chikugogawa, Shimabara, Miike, Tiensin, Kobe, Osaka, Amsterdam, Paramariko, Curasau, Nagoya	9葉356行	
37	1884 (M17). 6. 7	G. A. Escher <sup>(註)</sup>	Osaka	Shimidsu, Mulder, Ailion, Oriental Bank, Bonger, Miaiwits (eigenlijk Miyaguchi) vd Heijden	Tokio, Kiu-siu, Miike, Kurume, Miikemine, Chikugogawa, Yodogawa, Kisogawa, Osaka, Holl, Japan, Nobotoharen, Nagasaki, Shimonoseki, Kobe, Yokohama, Amerika, Sikoku, Takusima, Kiichannel, Yoshinokawa, Tokio, Rotterdam	2葉77行	
38	1884 (M17). 7. 21	G. A. Escher <sup>(註)</sup>	Tokio	D' vd Heijden, D Baelz, Europianen, Japanners	Osaka, Chikugogawa, Kurume, Hizen, Chikuzen, Higo, Bungo (Bugo), Tokio, Jakagos, rapport Oigawa, Osaka, Sikoku, Yoshinogawa	1葉36行	
39	1884 (M17). 8. 7	G. A. Escher <sup>(註)</sup>	Tokio	E. M. Satow, AGS Hawes, London John, Murray, Nakamura, O. B. C. Naimusho, Shima	Japan, Tokio, Suwalake, Sinano, Hollandus, Miyanosta, Hakone, Murray's handbook Japan, Takasaki, Suwa, Nagano, Yokoh, Kobe, Japaneers, Buddisme, Shintoisme	2葉72行	
40	1884 (M17). 10. 13	G. A. Escher Eng. Gorcum	Osaka	Fu, Sakaiken, heer Tateno, Mikado, min Yamagata, Naimusho, Shima, Osaka, Hirose, Jeutei, Yashiki, Geshas, Endo, Gouverneur Watsnabe, Fujita, A. K. M. Sato, Sakurai, Gunsho, Takagi, ken, En gela chman, Pownall, Murata, Ihada, Railw Dept. Japanners, Atsumi, Tonogawa, Mulder, Godai, Siecama, D' Beukema, Mrs Drummond, Resident Engineer Furuichi, VD, Lindo, Oriental Bank, Nakamura, Nagayo, B. O. H. Shimidzu, Ishii, Dobokurio	Osakahavenplan, England, Tokio, Ajikawa, Yokkaichi, Kobe, Kumamoto, Inlandsen, Kidzugawa, Osaka, Mino, Gun, Deltasurvey, Mino Rekinende, Nakasendo, Takasaki, Nagahama, Ogaki, Gifu, Yodogawa, Holl. Yoshinogawareport, Suwa, Yodo report, Yamaguchiken, Nagasaki, Nobiru, Rotterdam, Oikeplan 77, Shinogawa, Chiliplannen, Suwa, Kofu vallei, Chikugogawa, Yokohama	12葉420行付人	

表-1-5 de Rijkeが先に帰国したGeorge Arnold Escherへ送った手紙に記載されている人名・行政機関、場所等  
(作製: 上林好之、1992.4.1)

No	日付	送り先 (送り主)	書かれ た場所	記載されている			de Rijkeが内務省へ報告した文書⑥ (1876年~1889年)
				人名、行政機関等	場所、その他	葉、行数	
41	1884 (M17). 10.23	G. A. Escher Eng. Gorcum	Ogaki	Pownall, Eugeleshman, Jeuu, Siceema, Mulder, Minister Yamagata, Nakamura, Shima, Sanji In (Lagar den Genro In), Dobokuchio, Tochigiken, Fukushimaken	Ogaki, Biwa Inke, Nagabama Tsuruga, Gifuku, Mino, Tonegawa, Nobiru, Osaka, Tokushima, Tokio	2葉63行	
42	1884 (M17). 12.9	G. A. Escher Eng. Gorcum	Tokio	Mulder, Min-Yamagata, Mishima, Shima, Dai, Nakamura, Nainusho	Mino, Nobiru, Osaka, Holland, Japan, Nederland, Rapport Chikugogawa & Yoshinogawa op Sikoku	2葉59行	
43	1884 (M17). 12.15	G. A. Escher Eng. Gorcum	Osaka	B. O. H. Japanners, Watanabe	Holland, Mino, Yodogawa	1葉132行	
44	1885 (M18). 5.4	G. A. Escher Eng. Gorcum	Apeldoorn	Osakafu, Duits, Jllies, H. P., Mulder, rapport Nobiru, V. D. Japanner Eyleman, Dr V. D. Heijden	Loolaan, Californië, England, Liverpool, London, Japan, Rotterdam, Osaka, Yokohama, Maasmoud, Ajikawa, Kisogawa, Tokio, Noord, Nobiru, Kobe	2葉70行	
45	1886 (M19). 4.11	G. A. Escher Eng. Gorcum	Tokio	Mulder, Koba, Geerts, Minister Yamagata, Nakamura, Hollandsch Ingenieur, Dr v. d. Heijden, Batteké, Vandervlies	Japan, Surugadai, Kandabashi, Kobe, Tsukiji, Engelsch Kapitoel, Yodogawa, Yodo, Holland, Hirakata, Stad Osaka, Adjikawabrug, Mishima, Augustus, Osaka, Mino, Niigata, Europa, Java, Tokio, Yokohama, Nagasaki	2葉142行	1886. 横浜港計画 (乾船渠築設計画に際しあわせて築港計画意見を上申したもの)
46	1886 (M19). 4.21	G. A. Escher Eng. Gorcum	Tokio	Mulder, Duitscher	Niigata, Holland, Amerika, Japan, Kumamoto	1葉24行	
47	1887 (M20). 6.19	G. A. Escher Eng. Gorcum	Tokio	Japaners, Waterstaatswerken Minister, Mulder	Europa, Holland, Engelsch, Kandabashi, Surugadai, Tokio, Mino river	2葉72行	1887. 4.18. 大阪築港及澁川高水修治の件上申(改修計画及び築港計画を詳述し澁川放水路の必要を述べている)西村土木局長宛
48	1887 (M20). 10.31	G. A. Escher Eng. Gorcum	Tokio	Waterstaat A. V., Mulder, Colonel Palmer, R.F., Kanagawaken, Osakafu, Naimusho, Japanners, Koba, Japansche Engineers, Tolc	Japan Hongkong, Yokohama, Tokio club, Osaka report, Yodogawa water, Yokohama, Japan, Kisogawa werken, Tokio, Apeldoorn, Kobe, Otsu, Yokkaichi, Osaka, HW regulation works, Temposu haven, Engelsch, Mistubori Cannal, Yedo, Tonegawa, Yodogawa, Hollandsch, Yodogawa LW bed	3葉215行	1887. 6. 利根河川計画改訂 (モデル共送) 1887. 12.30. 大阪築港及澁川高水路改修計画、西村土木局長宛
49	1888 (M21). 2.9	G. A. Escher Eng. Kampen	Tokio	V. Toheuren, Vaassen, Japanschoordeel, Toatai, V Hemet (V. H.), Col, Palmer, Kirihata Tokio harbour,	Osaka Consuls, Shanghai, Yellow river, China's sorrow, Honan, Kampen, Kisogawa, Report, Yokohama harbour, Tokio, Yokohama, rapport Yoko, Mulder's plan	2葉87行	1888. 1. 5. 大阪築港引込鉄道計画 (図面を添えて追申したもの)。西村土木局長宛 1888. 9. 1. 横浜港計画意見 (バルマー案を検討したもので、バルマー案よりも優越した案であったが政府はバルマー案を実施した)

表-1-6 de Rijkeが先に帰国したGeorge Arnold Escherへ送った手紙に記載されている人名・行政機関、場所等  
(作製：上林好之、1992.4.1)

No	日付	送り先 (送り主)	書かれた 場所	記載されている			de Rijkeが内務省へ報告した文書 <sup>6)</sup> (1876年～1889年)
				人名、行政機関等	場所、その他	葉、行数	
50	1889 (M22). 2. 2	G. A. Escher <sup>註)</sup>	Tokio	Corcum, Kampen, Heemskerk, Chinesen, Waterbouwk, Ing., Chin' Gov. Hara, China, Chinezen, Japanners, Mulder, Toatni, Berguestic, Jap'Spoor Ingenieurs, Bögel, Maatschr, Illies, Duitsche firma, Mrs Knipping, Merr Beukoma, Maeder Geerts, Mulder, Van Doorn, Schernbeek, Nakamura, Mikado, Heer Escher, Docter V. Mansvelt, Nishimura, Minister Count Yamagata, Shimidsu, Dob Kiyoku, Majior General Palmer, Maimusho, Krijger, Nadere, Anna	Houngho, Holland, Shanghai, Banklieden, Dortsche firma, Bankeers, Europische firma, Japan, Wusungbar Zand, rivierverlegging, Kisogawa verlegging, Holland, Mikumi haven, Kanker, Tokaido spoorweg welk, Hakone bergen, Tokio, Tottori, Europa, Kisogawa werken, Frankrijk, Duitschland, Bremer haven, Yokohama haven	7葉219行	1889. 東京港計画 1889. 3. 8. 東京築港意見、西村土木局長宛
51	1889 (M22). 6. 26	G. A. Escher Eng ing, Kampen	Tokio	Mnartijl, Mulder, onzen Koning, vd Golder, General Palmer, R. S., Buitenl, V. Wecherling, v. d. Got, Min, Yamagata, Lindo, Count Yamagata, Governeur, General, Mishima, Doboku chio, Metropol, Police, Shima, Nishimura, Nakamura, Ken, Shimadsu, Saiki, Verkerk Pistonus, Times, Tenmosama, Mikado, Hattem's, Janvantatten, Japansche Minista, Japanners, Inouye, Okuma, Pope Hennery, Coronel, Brinkley, Slimme, Oki (Governor Kanagawaken), Besluit, Bismark, Kencho, Yoshikawa, Naimusho, Bulton, Governor Utsumi, Bögel, Rohde	Japansche dienst, Japan, Europa, Osaka, Kisogawawerken, Holland, Tokio, China, Yokohama haven, Japansche voorstellen, Correspondent, Times, Japan Herald, Japan Gasette, Cabinetsrusd, Yokohama, Nishimura's rapport, Amerika, England, Tozai Shimbun, University, Nagoya, Kobe, Higo news Californië, Katatarand bergen	6葉211行	

注) 手紙には宛先が書いて無いが筆者が文面からG. A. Escherとした。

東京での住居について述べたのち、鉄道が出来て汽船の役割が少なくなったので、淀川は低水より高水対策が重要であると述べている。新潟港に対する Minister Yamagata (Home Dep.) の考えを述べている。この時期は信濃川河身改修計画で大河津分水が議論されていた時であるが、当初、計画、設計した Brunton や設計者と言われている<sup>30)</sup>古市公威の名がない。10) 1887 (明治20)年6月19日付と10月31日付手紙

日本の男性がヨーロッパへ行くようになり、公共事業もオランダの方法だけでは困難になりつつあること、Colonel Palmer が横浜水道工事のために来日したことも述べられている。

12) 1888 (明治21)年2月9日付手紙

イギリス人 Palmer の横浜港、大阪港の報告書について Mulder や de Rijke の考えを述べて Escher の意見を聞いている。

13) 1889 (明治22)年2月2日付と6月26日付手紙

2通とも長い手紙である。2月2日付のものは冷静な筆使いで書かれているが、6月26日付のものは、27日に亘って書かれている。山県内務卿の性格、天皇に関する近況を述べたのち、その大部分を横浜港改修計画の採用について述べている。イギリスの友人でもある Palmer には政商がつき、日本人流のやり方で外国人には一切行政には関与させず、Palmer 案を採用したことへの怒りに近い不満を、既に47才となり滞日16年の円熟した技術者の目で母国の威信をかけて執拗に荒々しい筆使いで書いている。de Rijke には最早 Escher の助けは必要が無くなっているようである。

## 6. おわりに

6000行に近い手紙の大部分が120年前のオランダ語で手書きされている。手紙の全部を十分に読むにはほど遠い状態で発表することになった。多数の見落としや読み違いがあると思うが、de Rijke が Escher へ送った手紙の全貌を紹介した。

これを機会に、オランダの土木技師団が、わが国の土木技術や土木事業の発展に果たした役割を多面的に研究する研究会を発足させたいと考えている。興味ある方々のご協力をお願いしたい。

最後に、この研究のために多数の資料を提供していただいた Mr Johan Hans Escher と Mr George Ar-

nold Escher、資料入手の手掛りをつくって下さった坂根徹夫慶応大学教授、三国町龍翔館上出純宏学芸員、研究の方法を助言して下さった日蘭学会常務理事金井圓東京大学名誉教授に深甚の謝意を表します。

## 参考文献

- 1) George Arnold Escher ; 『Levensshets en Herinneringen van George Arnold Escher』, retrodagboeken met bijlagen en genealogische gegevens』, 1910~1939, 63 delen.
- 2) 広井勇 ; 『日本築港史』, 丸善書店, 1924.
- 3) 土木学会 ; 『明治以後, 本邦土木と外人』, 土木学会, 1942.
- 4) 土木学会 ; 『日本の土木技術-100年の発展の歩み-』, 土木学会, 1964.
- 5) 建設省近畿地方建設局 ; 『淀川百年史』, 建設省近畿地方建設局, 1974, 10.
- 6) 前掲3) ; PP.284-294.
- 7) 建設省中部地方建設局木曾川下流工事々務所『デ・レーケとその業績』, 建設省中部地方建設局木曾川下流工事々務所, PP.67-70, 1987, 10.9.
- 8) George Arnold Escher ; 『Levensshets en herinneringen van George Arnold Escher, II Japan』, 1910~1911.
- 9) George Arnold Escher ; 『Volume of the Biographical sketch & Memories of George Arnold Escher written after his retirement in 1910 & 1911.』, Mahone Bay, Canada, December 1981.
- 10) 西原巧 ; 「ゲ・ア・エッセルの滞日五年ーその1ー」, 河川, NO.431, 日本川河協会, PP.48-54, 1984.
- 11) 西原巧 ; 「ゲ・ア・エッセルの滞日五年ーその2ー」, 河川, NO.432, 日本川河協会, PP.47-53, 1984.
- 12) 井口昌平 ; 「G. A. Escher の人と仕事について」, 日蘭学会会誌9-2, 日蘭学会, PP.59-75, 1985.
- 13) 前掲7) ; PP.1-233.
- 14) 福井県三国町 ; 『蘭人エッセル日本回想録』, 福井県三国町, 1990, 7, 1.
- 15) デレーケ研究所 ; 『デレーケ研究第1号~7号』,

- 地域開発研究所, 1985,5,25.,1987,2,20.,1987,  
5,15.,1988,7,30.,1989,10,1.,1991,6,10.,1992,  
2,20.
- 16) J.G. Bekker ; 『VOORLOPIG OVERZICHT van de  
archief bescheiden af komstig van ir.G.A.  
Escher 1843-1939』, Johan Hans Escher, 1990.  
17) 前掲12) ; P. 63  
18) 前掲14) ; P. 8.  
19) 前掲14) ; P. 41, P203.  
20) H.P. FÖLTING ; 『GENEALOGIE VAN HET NEDER-  
LANDSE GESLACHT ESCHER』, P. 34.  
21) 前掲14) ; P. 202.
- 22) 前掲7) ; P. 65.  
23) 前掲7) ; PP. 205-209.  
24) 例えば前掲12) ; P. 17.  
25) 井口昌平 ; 「デレーケについて」, デレーケ研究,  
第1号, 地域開発研究所, P. 2., 1985, 5, 25.  
26) 前掲12) ; P. 203.  
27) 井口昌平 ; 「DE RIJKEが砂防事業について論ずる  
に当たって引用したフランスの事例について」,  
デレーケ研究, 第1号, 地域開発研究所, PP. 9-23.,  
1985, 5, 25.  
28) 前掲7) ; P. P184-188.  
29) 前掲7) ; P. 189.